

2022 年度夏の三者総会 議案書

令和4年 8月9日(火)開催

本議案書は、令和4年8月9日(火)開催の、2022年度夏の三者総会に提出されたものである。

目次

1	2022 年度修正予算案	1
1.1	収入	1
1.2	支出予定	3
2	有志学生連合による運営体制の提案	5
2.1	はじめに	5
2.2	2024 年度三者センター校の有志学生連合への一任案	6
2.3	今後の展望：有志学生連合構想	8
3	2023 年度三者役職校一覧	9

1 2022 年度修正予算案

2022 年 7 月 30 日

文責：渡辺証斗 (北海道大学)

1.1 収入

- (1) 参加登録費 (参加者想定:220 名) : $¥0 \times 220 = ¥0$
- (2) 外部団体からの援助・協賛金 : ¥160,000

団体名	内容	申請額
素粒子論グループ *1	運営費	¥54,000
基研 *2	講師旅費 (学生発表者含む), ポスター印刷費	¥100,000
高エネルギー研究者会議	協賛	¥0
仁科加速器センター	協賛	¥0
KEK *3	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費	出版費
RCNP	協賛	¥0
合計		¥154,000

*1 2021年度秋季学会にて援助申請を行った。

*2 2022年度1月頃申請。

*3 2022春季学会にて申請。

(3) 前年度繰越金：¥810,913

収入合計：(1) + (2) + (3) = ¥964,913.

1.2 支出予定

- (1) 旅費補助：¥0
 (2) ポスター印刷費：¥100,000
 (3) 各役職校支出：¥58,100 (詳細な内訳は次節に記載)

役職名	修正予算案	前年度決算
三者		
センター校	¥2,000	¥880
事務局校	¥0	¥0
準備校	¥49,100	¥47,992
企画校 *1	¥0	¥95,170
素粒子論パート		
事務局校	¥0	¥0
準備校	¥3,000	¥1,620
講義録校	¥0	¥0
原子核パート		
センター校	¥0	¥0
準備校	¥0	¥0
ハラスメント対策委員	¥0	¥0
合計	¥54,100	¥145,662

支出合計：(1) + (2) + (3) , = ¥154,100

次年度繰越し金：(収入合計) - (支出合計) = ¥810,813(対前年差 - ¥100)

*1 2020年度より新設。

1.2.1 各役職校の支出内訳

- 三者センター校 (北海道大学)

項目	修正予算案	前年度決算
振込手数料	¥2,000	¥880
賞状代	¥0	¥0
合計	¥2,000	¥880

振込手数料：ホテル利用料、および旅費補助の支払いにかかる振込手数料

賞状代：研究会で優れた発表を行った人への賞状代

- 三者事務局校 (筑波大学)
 予算申請無し。
- 三者準備校 (大阪大学)

項目	修正予算案	前年度決算
施設使用料	¥0	¥0
施設予約金	¥0	¥0
コピー代	¥5,000	¥0
消耗品代	¥10,000	¥2,629
備品送料 *1	¥0	¥0
郵送費	¥20,000	¥22,640
ポスター制作費 *2	¥0	¥0
Zoom	¥14,100	¥22,723
合計	¥49,100	¥47,992

施設使用料：講義・研究会などに使用する部屋の使用料

予約費：ホテル仮予約のために必要な経費

コピー代：書類のコピーにかかる費用 (ポスター印刷は除く)

消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費

備品送料：次年度準備校への備品運送費

郵送費：各大学へのポスター郵送費

ポスター制作費：ポスターデザイン依頼費

zoom：Zoom のアカウント作成費

*1 これまでは慣例的に担当役職校が支払いを行っていたため、予算には計上されていなかった。

*2 基研からの補助で賄うため、三者準備校の予算には計上していない。

- 三者企画校 (東京工業大学)

項目	修正予算案	前年度決算
Remo 代	¥0	¥95,170
合計	¥0	¥95,170

Remo 代：ポスター発表に用いた Remo のアカウント作成費

- 素粒子論パート事務局校 (九州大学)

予算申請無し。

- 素粒子論パート準備校 (九州大学)

項目	修正予算案	前年度決算
録音・録画機材代	¥0	¥0
消耗品代	¥0	¥0
機材送料	¥3,000	¥1,620
合計	¥3,000	¥1,620

録音・録画機材代：録音・録画保存用 SD カードなどの購入費

消耗品代：ホワイトボードマーカーなどの購入費

機材送料：夏の学校会場および次年度担当校への機材運送費

- 素粒子論パート講義録作成校 (九州大学)
予算申請無し。
- 原子核パートセンター校 (名古屋大学)
予算申請無し。
- 原子核パート準備校 (新潟大学)

項目	修正予算案	前年度決算
消耗品代	¥0	¥0
印刷代	¥0	¥0
合計	¥0	¥0

消耗品代：ホワイトボードマーカー、クリーナー、電池などの購入費

印刷代：研究会で使用する資料の印刷代

- ハラスメント対策委員
予算申請無し。

2 有志学生連合による運営体制の提案

2022年8月2日

文責：五十嵐律矩、長田大河、田中和樹（新潟大学）

2.1 はじめに

2024年度三者センター校は新潟大学が担当予定となっています。しかし、当該年度の実働人数が不足しており、三者センター校を受け持つことができません。従って、2024年度原子核三者若手夏の学校（以下、夏学と省略）は開催できない可能性があります。本議案書では**2024年度三者センター校の運営を有志学生連合に一任する制度**を提案します。このセクションでは認識共有のためにローテーション制度を紹介し、新潟大学の現状を説明します。

2.1.1 ローテーション制度

夏学は各年度ごとに選定される役職校により運営されています。比較的負担の大きい三者センター・準備校はローテーション制度に従って、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、新潟大学の8大学が務めることになっています（表1）。

ローテーション制度における選定大学の基準

[1, 2]によれば、三者センター・準備校を務める大学の選定基準は以下の通りです。

- 規模が大きく、M2、D1、D2が安定して7人程度以上在籍する。
M1は具体的に夏学の様子を知らず、D3は特に多忙なため実働人数には数えない。
M2が多数在籍しているが大部分が就職する傾向にある大学は除外する。
- 予算申請にあたり原子核・素粒子両方の外部団体に申請する必要があるため、両分野の研究室が存在する。

センター校の主な役割は「外部団体への予算と協賛の申請」「予算管理、旅費宿泊費補助の決定」「web・

年度	センター	準備
2023	名古屋大学	九州大学
2024	新潟大学	東北大学
2025	京都大学	東京大学
2026	大阪大学	北海道大学
2027	九州大学	名古屋大学
2028	東北大学	新潟大学
2029	東京大学	京都大学
2030	北海道大学	大阪大学
⋮	⋮	⋮

表1 今後のローテーション予定。

sansha-ctr ML の管理」であり、必要な実働人数は最低でも、代表1名（申請時点で博士学生）、予算申請担当1名（申請時点で博士学生）、会計担当1名の計3名です [3]。

2.1.2 新潟大学の現状

新潟大学では近年、学部改組が行われたため、物理学プログラム（旧物理学科）の学生数が安定しておりません。原子核理論・素粒子論研究室においても安定した学生数の確保が難しいと言えます（表2）。2024年度在籍予定者数の内訳は表3の通り少なく、さらに言えば、D2の学生は当該年度に海外出向をしている可能性があります。従って、新潟大学は2024年度三者センター校を担当することが難しい状況にあります。

年度	M2	D1	D2	(D3)	年度	M2	D1	D2	(D3)
2024	5 (予定)	未定	0	1	2024	3 (予定)	0	1	0
2023	4	0	1	1	2023	1	1	0	1
2022	3	1	1	0	2022	3	0	1	1
2021	4	1	0	3	2021	2	1	1	1
2020	4	0	3	2	2020	2	1	1	1
2019	4	3	2	3	2019	4	2	1	1
2018	8	2	3	0	2018	5	1	1	0

表2 新潟大学素粒子論研究室（左）と原子核理論研究室（右）の在籍者数の変動。太字は、物理プログラム一期生。

	M2	D1	D2	(D3)
在籍者数（原子核・素粒子内訳）	8 (核:3、素:5)	未定	1 (核:1)	1 (素:1)

表3 2024年度 新潟大学原子核・素粒子在籍予定者数。

2.2 2024年度三者センター校の有志学生連合への一任案

上記の現状を解決する策として、有志学生連合制を考えています。有志学生連合とは夏学の運営に意欲的な学生団体のことを指し、この制度は彼らに運営を任せられることを想定しています。この議案書では2024年度三者センター校を有志学生連合に置き換えることを提案します。

2.2.1 具体的な方策

2024年度三者センター校の仕事に意欲的な学生を個人単位で募集します。

募集要項は以下の通りです。

- 所属大学は問わないが、素粒子・原子核の理論・実験研究室に在籍している学生。
- YONUPA-MLに登録する or している学生。
- 2024年度の学年がD1、D2の学生（現在M1、M2の学生）。
ただし、M1は進退が決まっていないので、D進の去就が決まっている現M2を優先する。
- 募集人数は3-5人とする。
- 選考は新潟大学が責任を持って担当する。
規定人数以上集まった場合、他の役職校に人員補充の相談を新潟大学が行う。

有志の募集は2022年度の夏学終了時に行うアンケートで実施します。選考結果は秋の三者総会に提出する議案を通して報告します。

有志学生連合が実際に活動するまでの決まりを以下の通りに設けます。

- 有志学生が辞退する場合、その者は責任を持って後任を探す。この時、事務局校は後任探しのための情報提供を行う。さらに、やむを得ない事情（災害・病気・死亡等）によりその者が職務遂行不能の場合は他の有志学生が後任を見つけるか、肩代わりする。
- 秋の三者総会では有志学生連合の名簿を作成し提出する。
名簿には、氏名・所属・学年・メールアドレス（修士課程から博士課程まで一貫して使用できるもの）を記載する。
- 名簿の取り扱いに関して、新潟大学から2023年度の三者センター校（名古屋大学）に引き渡し、直接引き継ぎを行ってもらう。

2.2.2 有志学生連合による運営のメリット

- **個人の意志の尊重**
大学・研究室としての意向は関係ないため、意欲ある学生が隠れてしまうことはない。
加えて、原子核・素粒子両研究室の存在が基準であった三者センター校はこの限りではない。
- **士気の高さ**
有志学生が運営に携わることで仕事の効率向上が見込まれ、充実した夏学が期待できる。

2.2.3 予想される質問とその回答

- Q. 2024年度の三者センター校はローテーションの繰上げ・変更や他大学との共同で解決するのではないかな？
- A. 繰上げ・変更案や共同案も検討していましたが、場当たりの解決にしかありません。新潟大学が毎年、順番変更をお願いする可能性も否定できません。セクション2.3で述べますが、試験的に有志学生連合制を導入することには価値があると考えています。
- Q. 大学単位で行っていた場合に比べ、連携が取りにくくなる可能性はないかな？
- A. 過去には2大学合同で役職校を務めた年度もあり、オンラインツールのおかげで十分仕事をこなせるのではないかと考えています。また、「物性若手夏の学校」や「天文・天体物理若手夏の学

校」では毎年有志の学生による運営が行われています。

Q. 有志が集まらなかった場合はどうするのか？

A. 今年度の夏学終了後も後任探しは続けるつもりですが、どこも引き受けてくれなかった場合は2024年度の夏学開催は厳しいと思われます。

2.3 今後の展望：有志学生連合構想

この提案は2024年度の三者センター校についてのみ言及したのですが、**将来を見据えた布石**でもあります。このセクションではその考え、すなわち有志学生連合構想を私見として主張させていただきます。

2.3.1 2025年度以降の展望

この構想ではローテーション制を維持したまま、三者センター校を有志学生連合に完全に置き換えることを想定しています。将来的な理想としては事務局校、企画校、準備校も有志学生連合が務めるのが望ましいと考えています。他方、原子核・素粒子各パートに対するそれは三者総会の議題ではないので、それぞれ各パートの有志で議論されることを期待します。

2.3.2 有志学生連合制の意義

今回の有志学生連合制が成功して、全ての役職校がそれにとって代わった暁には次の2つの問題が解消されると考えています。

1. 役職校選定の心理的負担

三者センター・準備校の選定はローテーション制で定められています。事務局校・企画校は両方とも事務局校が選定することになっており、原子核パートセンター・準備校、素粒子パート準備・講義録校は各パートごとに選定されています [表 4]。役職校の依頼は断られることが多く、選定大学の心理的負担は想像に難くありません。

	三者				素粒子		原子核	
	センター校	準備校	事務局校	企画校	準備校	講義録校	センター校	準備校
選定担当	ローテーション		事務局校		準備校		センター校	

表 4 各役職校の選定について。

素粒子パートの準備校、原子核パートのセンター・準備校は三者センター・準備校とは別組織。

2. 少子化問題の影響

日本は少子化問題を抱えています。全ての大学がこの影響を被るため、将来的にどこの大学も役職校を引き受けづらくなる状況が予想されます。(そもそものローテーション制の背景の一つにはこれがあります [1].)

この構想では以上の2点を抜本的に解決する枠組みとして有志学生連合制を位置付けています。

謝辞

議案書作成にあたりご意見下さった筑波大学の安藤雄史さん、大阪大学の青木匠門さん、北海道大学の戸田陽さんにこの場をお借りして感謝申し上げます。

参考文献

[1] 2016 年度春の三者総会議案書

http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2016spring_gian.pdf

[2] 2019 年度夏の三者総会議事録

http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2019summer_giji.pdf

[3] 2019 年度夏の三者総会議案書

http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2019summer_gian.pdf

3 2023 年度三者役職校一覧

2023 年度三者若手夏の学校における三者役職校が以下の通りとなりました。

- 三者センター校：名古屋大学
- 三者準備校：九州大学
- 事務局校：静岡大学
- 企画校：大阪公立大学

また、2024 年度の三者センター校、準備校についてはローテーションに則って以下の通りとなります。

- 三者センター校：新潟大学
- 三者準備校：東北大学

但し、議案 2 を加味して変更する可能性があります。